

九鬼家の没落

九鬼嘉隆の息子・守隆は、天下統一を成し遂げた徳川家康（1543-1616）に忠誠を誓うことで、伊勢志摩における一族の勢力を保つことができました。残念ながら、九鬼家が鳥羽城を治めていたのは比較的短期間にとどまりました。

守隆の長男は廃嫡されており、1632年に守隆が死去した際、明白な後継者が存在しませんでした。このことは三男の隆季（1608-1678）と五男の久隆（1617-1649）の間に家督争いを引き起こし、内乱が勃発しそうな事態となりました。

最終的に、徳川政権が介入し、隆季は現在の京都、久隆は現在の兵庫へと、二人とも別々の領地に移されました。九鬼家は強力な水軍で知られていたものの、二人はどちらも内陸部への移封となり、鳥羽城は徳川家の家臣である内藤家が引き継ぎました。